

黒潮町消防協議会視察研修
 能登半島地震に学ぶ

黒潮町消防団・黒潮消防署・黒潮町で構成する『黒潮町消防協議会』が、次の南海地震に備え、参考とするために、能登半島地震の被災地である石川県輪島市で視察研修を受けてきました。



今月は、能登半島地震の概況をふまえ、視察研修の報告をします。

視察研修について

視察研修の参加者は、黒潮町消防団長・副団長、黒潮消防署長・副署長、役場防災担当者（11名）、日程は6月26日から28日の3日間（26日・28日は移動日）、27日の午前中に輪島消防署で、午後は輪島市役所で研修を受けました。

能登半島地震の被害の概況

平成19年3月25日、午前9時41分、能登半島沖を震源（深さ11km）とするマグニチュード6・9の地震が発生し、石川県七尾市、輪島市、穴水町で震度6強、志賀町、中能登町、能登町で震度6弱を観測したほか、北陸地方を中心に、北海道から中国・四国地方にかけて震度5強から1を観測しました。

また、輪島市では全世帯が停電（3月26日午後4時50分解消）し、断水は5,500戸（輪島地区4月3日午後8時解消、門前地区4月7日午前8時解消）、固定電話と携帯電話の発着信規制（固定電話3月25日午後2時9分解除、携帯電話3月25日午後3時25分解除）のインフラの被害がありました。

能登半島地震の輪島市の被害の概況

人的被害	死者	1人
	重傷者	46人
	軽傷者	69人
建物被害	全壊	513棟
	半壊	1,086棟
	一部損壊	9,988棟
	非住家被害	2,899棟

（平成20年7月25日現在・石川県）

報告書から（抜粋・編集）

輪島市において、建物被害など大きな損害にも係わらず犠牲者が少なかった理由として、これらの複合的な要因があると考えられます。

- 日頃から地域住民が協力し合う習慣（共助）がある
- 元気なお年寄りが多い（高齢化率は県下でトップであるが、医療費負担率は県下最低である）
- 震災当日は輪島市の観光地である朝市が休みであり、観光客がいなかった

- 暖かな日曜日で、多くの方が外出していた
- 家に大きな大黒柱などを使用していたため倒壊家屋の中に空間が多くあった

- ② 家のバランス され、対策をしなかった。
- 築後100年が経過している、葦草きを瓦葺にして屋根が重くなっている、道路面のみに窓や扉が多いなど、家の壁のバランスが悪いため倒壊した。

津波の状況
 珠洲市と金沢港で約20センチメートルが観測されていますが、この津波による被害は無かったとのこと。

- ③ 高齢過疎化地域 高齢化率が41%と高いが、近所づきあいがあり、復旧に役立つ。

消防署などの状況と対応
 震災当日の『119番通報』が通常時の25倍（76件）にのぼり、重傷者と思われる事案の出勤を優先し、軽傷者と思われる事案については近くの病院を紹介し、自力で対応いただいたとのことでした。

- ④ 災害時要援護者支援 門前地区では、民生委員が中心となり、見守りネットワークがあり、日ごろから助け合う体制があった。
- ⑤ 余震！緊迫する現場 不安と心配、ストレスに対する対応が必要。

また、消防団は被害状況の調査や地区の水利点検、崩壊地や家屋へのブルーシート張り、土のう作製、危険物の搬出などの対応を行ないました。

輪島市では、この地震での教訓として、次の5点を挙げています。

① 誤ったメッセージ 地震の発生確率が低いと

近い将来必ず起こる南海地震への対応について、輪島市の教訓から、身近な自助・共助、地域で支える自主防災組織などの重要性を感じました。また、行政消防団・消防署が協力し、更なる取り組みを進めて行きたいと思えます。

お問い合わせ 【本庁】総務課 消防防災係 ☎43-2112（直通） 【佐賀総合支所】総務課 総務係 ☎55-3113（直通）